



日本鳥学会

2022 年度大会

プログラム

2022年11月3日(木)～6日(日)

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス  
網走市民会館

Satomiki  
Kawasaki

# 大会案内

## 【概要】

主催：日本鳥学会

協賛：サントリーホールディングス株式会社、株式会社モンベル、特定非営利活動法人 UniBio Press、  
Druid Technology Co., Ltd.

後援：網走市

協力：東京農業大学

会期：2022年11月3日（金）～6日（月・祝）

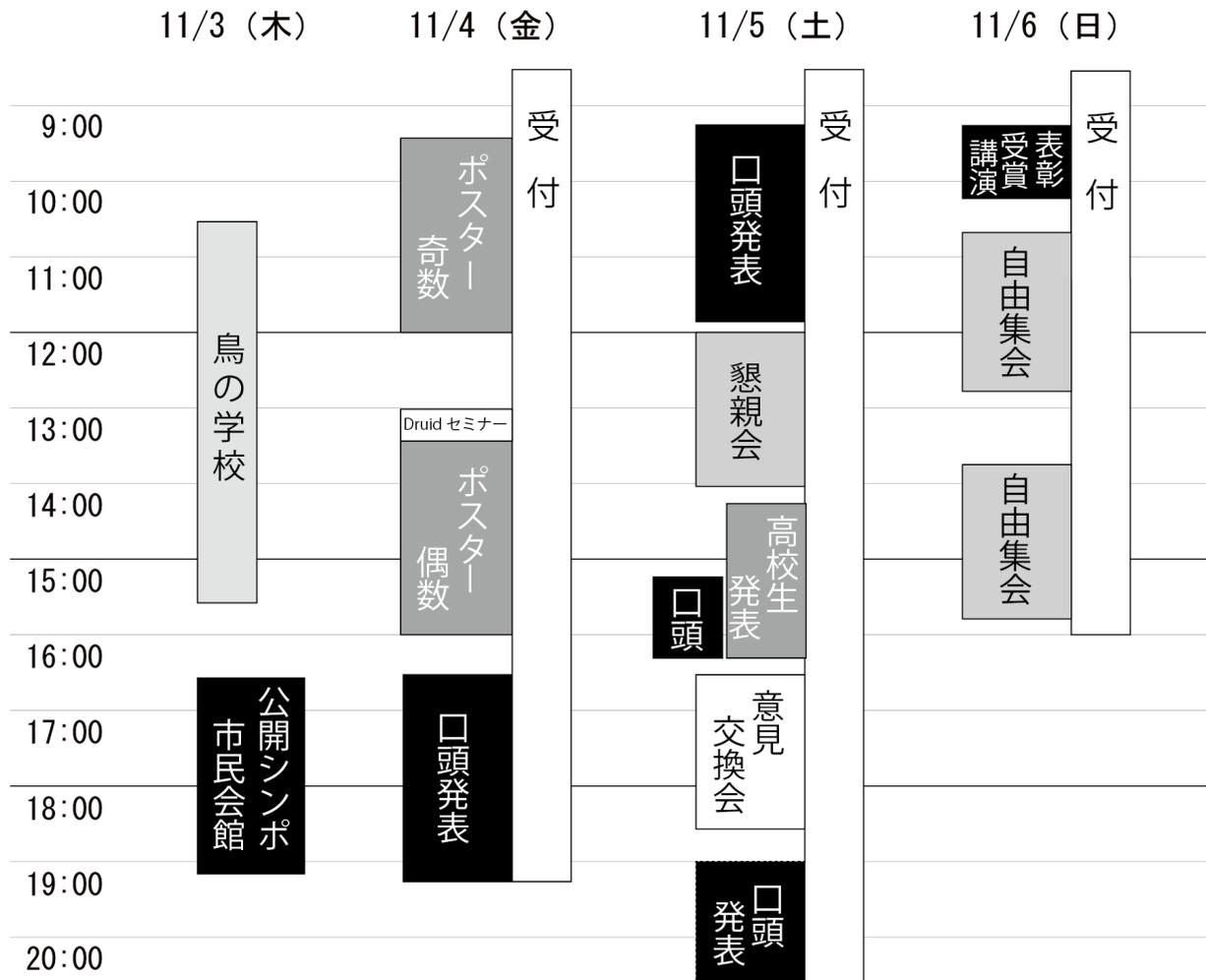
会場①11月3日；網走市民会館（公開シンポジウム会場）

（北海道網走市南6条西1丁目、網走駅より徒歩17分、約1.2km）

会場②11月4日～6日；東京農業大学北海道オホーツクキャンパス（メイン会場）

（北海道網走市八坂196、女満別空港から車で約20分、網走駅よりバス約30分）

## 【日程】



## 【受付】

- 受付開始時間は4日・5日・6日いずれも8:30です。
- ポスターの掲示可能期間は4日（金）8:30～5日（土）16:00です。コアタイムは奇数番号のポスターが4日9:30～12:00、偶数番号が4日13:30～16:00、高校生発表が5日14:15～16:15です。
- 参加者にはワクチン接種（2回以上）証明または大会開催前一週間以内のPCRもしくは抗原検査による検査結果（必ずしも公的な証明である必要はありませんが、検査日と結果がわかるもの）を受付時に提示していただきます（スマホ画像可）。

## 【COVID-19 への対応について（体調が悪くなった場合）】

- 大会期間中に会場で発熱等体調不良となった場合、学会スタッフにご報告ください。学会スタッフと共に救護教室に移動後、網走市指定の「発熱者等電話相談医療機関」に指示を仰ぎます。救急車以外の手段での通院の指示があった場合、自家用車やレンタカーをお持ちの方はご自分で運転して移動していただきます。車両のない方は学会スタッフの運転する公用車で病院に行ってください。その後は医療機関や保健所の指示に従ってください。
- 大会期間中に新型コロナウイルス感染者となった場合、濃厚接触者への連絡は原則的にご本人からお願いします。ただし、連絡先のわからない方へは学会本部から連絡しますので、お知らせください。
- 発表予定の方が大会期間前に新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者、体調不良者となり発表できなくなった場合は、「状態、演題の有無、移動手段の有無」などの情報を、**Forms** (<https://forms.office.com/r/3nNBCiqLLs> または右 QR コード)を通じて学会にお知らせください。
- 大会終了から翌々日まで新型コロナウイルス感染者となった場合も、上記の**Forms** でご連絡ください。
- ホテルなど会場以外の場所で体調が悪くなった場合、網走市指定の「発熱者等電話相談医療機関」にご相談ください。



医療機関名	住所	電話番号
J A 北海道厚生連 網走厚生病院	北 6 条西 1 丁目	0152-43-3157
医療法人社団 網走中央病院	南 6 条東 1 丁目	0152-44-8611
金川医院	南 2 条西 2 丁目	0152-43-2884
医療法人社団 はまむき医院	南 5 条西 4 丁目	0152-44-7365
医療法人社団 後藤田医院	新町 1 丁目 2-7	0152-44-6811
なかむら内科ハートクリニック	潮見 7 丁目 14-7	0152-67-5111
中山医院	南 2 条西 1 丁目	0152-44-7227

医療機関名	住所	電話番号
医療法人社団 南5条クリニック藤田整形外科内科	南5条西2丁目	0152-44-7305
医療法人社団朗愛会 こが病院	字潮見153-1	0152-61-0101
こまばクリニック	駒場北4丁目1-1	0152-67-5310

網走市保健センター 電話：0152-43-8450

北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター 電話 0120-501-507

### 【COVID-19 への対応（予防）】

- 開催日時点で、新型コロナウイルス感染者および濃厚接触者である方、高熱や喉の違和感など体調不良のある方、日本へ入国されて待機期間中の方は、来場を控えて下さい。
- 厚生労働省「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」、北海道「コロナ通知システム(会場にて紹介)」への積極的な登録をお願いします。
- 大会期間中は毎日、会場に立ち入る前に受付でサーモグラフィーでの検温をお願いします。
- 会場では原則として飲食時以外は、マスクの着用をお願いします。
- 会場ではこまめな手洗いや、設置されている消毒用アルコールでの手指の消毒をお願いします。
- 近接した距離（1m以内）での長時間（15分以上）の会話は極力控えてください。
- 一般講演会場では、座長・演者と聴講者の間に2m以上の間隔を確保させていただきます。
- また、口頭、ポスターの演者は、発表時もマスクを着用してください。ポスター発表では特に、密を避けるためにも、決められた発表時間を必ず守ってください。また、混んでいたら他を先に聞いて様子を見るなど、参加者も密を避けるようにしてください。
- 会場内の各教室では、定期的に扉・窓の開放と座席の消毒を行い、寒い時期ですので寒さ対策をしてください。
- 飲食は、指定ヶ所のみをお願いします。
- 大学構内での食事の際には、食堂内での黙食にご協力ください。また、食事後は速やかにマスクを着用することをお願いします。
- 懇親会での食事には、ランチボックス（個別のプレート）を提供する予定です。
- 休憩室利用後の退席時は、使用した座席と机の消毒をお願いします。

※大会期間中に新型コロナウイルス感染者が発生し、公的機関から情報提供を求められた場合、感染者以外の方も含めた参加者の個人情報を提供することがあります。個人情報の取扱いには十分注意いたしますので、あらかじめご了承の上ご参加ください。

## 【交通アクセス・会場案内】

### 1) シンポジウム会場

網走市民会館 大ホール  
北海道網走市南6条西1丁目



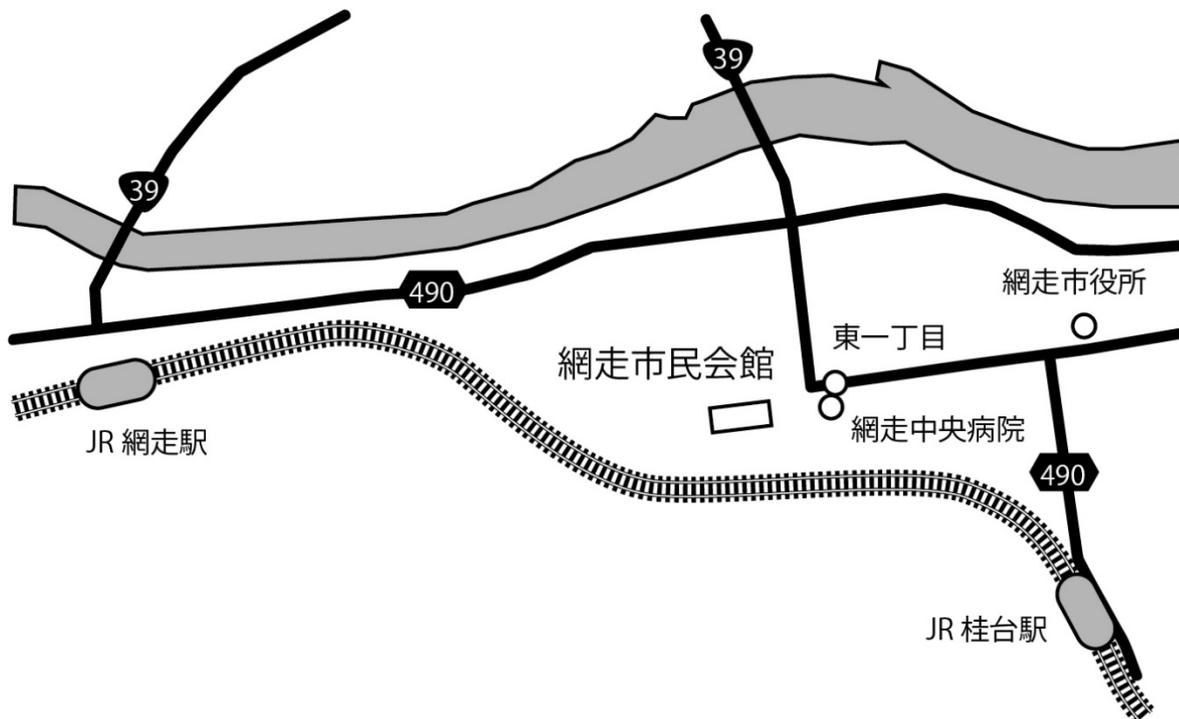
## 【網走市民会館への交通案内】

- ・ JR 石北本線「網走駅」より徒歩約 14 分
- ・ JR 釧網本線「桂台駅」より徒歩約 10 分
- ・ 網走バス「西 2 丁目」「東 1 丁目」バス停
- ・ 駐車場：67 台（有料：来館者 50 円/30 分）

車いす専用駐車スペース 2 台

駐車場ご利用の際には駐車券をお持ちの上、市民会館事務所に申し出てください。

## 【網走市民会館周辺の地図】



## 2) メイン会場

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス  
北海道網走市八坂 196



### 【東京農業大学北海道オホーツクキャンパスへの交通案内】

#### バス

網走市街⇄東京農大（東京農大線）

網走市街と東京農大を結ぶ路線バスが運行されています。

料金 380 円、所要時間 30 分（網走駅前～東京農大の場合）

#### 東京農大線

網走バスターミナル→農大	農大→網走バスターミナル
07:36→08:00	08:10→08:32
08:10→08:34	08:45→09:07
08:56→09:20（網走駅 08:50, 土日祝：運休）	09:30→09:52（土日祝：運休）
10:01→10:25	10:45→11:07
11:40→12:04（土日祝：運休）	12:20→12:42（土日祝：運休）
12:06→12:30	14:50→15:12
14:01→14:25	16:30→16:52
15:21→15:45（土日祝：運休）	18:10→18:32
15:56→16:20	19:55→20:17（土日祝：運休）

※臨時バスを運行予定です。詳細は決まり次第ウェブサイトに掲載いたします。

#### タクシー

##### 女満別空港⇄網走

料金約 5,000 円、所要時間 20 分（女満別空港～東京農大の場合）

網走ハイヤー：0152-43-3939, 0152-44-3939

網走北交ハイヤー：0152-43-4141, 0152-44-4141

##### 網走市街⇄東京農大

料金約 3,000 円、所要時間 10 分（網走バスターミナル～東京農大の場合）

網走ハイヤー：0152-43-3939, 0152-44-3939

網走北交ハイヤー：0152-43-4141, 0152-44-4141

【東京農業大学北海道オホーツクキャンパス構内の地図】



内容	建物	教室名等
受付・クローク	①	3号館 1階 イノベーションスペース
大会実行委員会本部	①	3号館 1階 イノベーションスペース
講演会・意見交換会	③	8号館 3階 8-301, 8-302
口頭発表 A 会場	③	8号館 3階 8-301
口頭発表 B 会場	③	8号館 3階 8-302
ポスター発表	④	体育館

自由集会	③	8号館2階 8-201, 8-202, 8-203, 8-204, 3階 8-301
高校生ポスター	③	8号館2階 8-202
表彰・受賞講演	⑤	大講義室
展示販売	- ⑥ ④	3日：市民会館 4-6日：7号館2階 (予備4日：体育館ポスター，会場に隣接)
休憩室	① ⑥ ③	4-6日：3号館2階 ラウンジ白樺 4日，6日：7号館1階 第2食堂クリオネ 5日：8号館2階 8-203
食堂	⑥	7号館1階 第二食堂クリオネ
参加者駐車場	⑦	第6駐車場
指定救護室	②	2号館3階 2-306

### 【受付】

11月4日（金）～6日（日）の大会受付は3号館1階「イノベーションスペース」です。

4日（金） 8:30～18:00

5日（土） 8:30～18:00

6日（日） 8:30～18:00

名札をお渡ししますので、会場では必ず着用ください。

※11月3日（木）の公開シンポジウム会場では大会の受付は行いません。

### 【クローク】

11月4～6日には3号館1階「イノベーションスペース」の一角で荷物をお預かりします。

4日（金） 8:30～19:20

5日（土） 8:30～20:30

6日（日） 8:30～16:10

※貴重品はお預かりできません。荷物は利用時間内に必ずお引き取りください。

### 【託児サービス】

会期中（11月3日～6日）、小学校低学年までを対象とする託児サービスをご提供します。本大会では会場内に託児所を設置せず、資格を持つ市内の一般家庭に預けるサービスをご利用いただきます。万が一の事故などの場合は、保育委託先と利用者の契約により、保険の適用範囲で保障されます。大会実行委員会は一切の責任を負わないことをご了承ください。

サービスの利用料金は学会および大会実行委員会が負担しますが、保険料（1日700円程度）や雑費（オムツや飲食等に係る経費を含む）、お子様の送迎に係る経費については、預け先とご相談の上、利用者をご負担ください。

なお、預け先予定のご家庭（人数によっては複数）の最寄り駅は網走駅ですが、住宅地までは約1～数kmあるため、送迎時はタクシーご利用が便利です。

託児サービスには事前申込みが必要です（9月15日に締め切りました）。

### 【評議員会・各種委員会】

大会開催前にオンラインで実施しました。

### 【総会・意見交換会】

今年度の総会は書面決議となりました。したがって、委任状の提出は不要となりました。

大会では意見交換会が開催されます。意見交換会は11月5日（土）の16:30～18:30に8号館8-301（人数が多い場合は8-302も使用予定）にて行われます。

### 【表彰・受賞講演】

11月6日（日）9:15～10:15に大講義室にて表彰と受賞講演が行われます。

### 【一般講演：口頭発表】

#### 時間と機材

発表時間12分以内、質疑/発表交代を含めて15分以内を厳守してください。OSはWindows10、使用できるアプリケーションはPowerPoint 2019（他のバージョンでファイルを作成した場合、プレゼンテーション機能の一部を利用できないおそれがあります）、またはAcrobat Reader DC-Japanese、使用可能なファイル形式は.ppt、.pptx、.pdfです。個人のパソコンは基本的に使えません。

#### 発表ファイルの提出

口頭発表用のファイルは、4日の朝10時までに、受付に提出してください。ファイルはUSBメモリーで持参いただき、受付のPCにコピーしてください。ファイルサイズ20MB以内とします。なお、4日（金）に発表される方については、メール添付による提出も受け付けますので、3日（木）17時までに専用アドレス（happyo[at]osj2022.ornithology.jp ※[at]を@に変えてください）までお送りください。ファイル名は「会場名（A または B）\_発表番号」としてください。会場名と発表番号は大会ウェブサイトに掲示します。

お預かりしたファイルは、発表終了後に大会事務局が責任を持って消去します。

#### 座長

本大会でも、口頭発表をされた方には直後の発表の座長（司会進行）を担当していただきます。皆様のご協力をお願いします。

### 【一般講演：ポスター発表】

- ・ポスターは A0 サイズ（横 841mm×縦 1189mm）以内になるようご用意ください。掲示用具は大会事務局で用意します。
- ・ポスターは 4 日（金）8：30～5 日（土）16：00（意見交換会の前）まで掲示しておくことができます。ポスターの掲示と撤去は各自の責任でお願いします。16：30 までに撤去をお願いいたします。掲示期間後も掲示されているポスターは大会事務局が撤去します。
- ・演者はポスターの前で説明をおこなってください。ポスターの説明時間は 4 日（金）の午前または午後を実施して頂きます。
- ・各演者の説明日時の割り当てについては、大会プログラムまたは大会ウェブサイトでご確認ください。

### 【日本鳥学会ポスター賞】

若手の独創的な研究を奨励する目的で「日本鳥学会ポスター賞」を設けます。応募方法・応募資格等の詳細は 2022 年度日本鳥学会ポスター賞募集要項をご覧の上、ふるってご応募下さい。ポスター賞応募者は、必ず 11 月 4 日（金）午前 9：30 までに掲示してください。

### 【自由集会】

6 日（日）に開催いたします。自由集会会場には液晶プロジェクターおよびモニターケーブル（ミニ D-sub15pin および HDMI）が備え付けられています。パソコンは自由集会の主催者をご用意ください。自由集会における会場の運営・後片付けは、主催者の責任でおこなってください。

※自由集会のオンライン対応について

大会案内に、参加者が他者や他者の発表の録音・録画・撮影等を行うことの禁止を明記していますが、自由集会については下記のとおりとします。

- ・発表者：自由集会の発表者は大会参加者となりますが、事前に事務局に申請することで、オンライン発表者を含むことができます。
- ・同時配信：できません。
- ・後日配信：原則できません。しかし、主催者が責任を持って参加者の同意や発言の適切性を確認すれば、主催者判断で可能とします。

（注意点）

- ・ズーム等のクラウドミーティング会議室の設定は、主催者で準備してください。WiFi は大会事務局で準備してありますが、回線速度は速くなく、また、回線が混雑することで、うまくつながらない可能性があります。主催者側でも回線のバックアップをご準備ください。

### 【高校生向けプログラム】

11 月 4 日

8：30 受付及びポスター掲示開始

11月5日

12:10~13:40 キャンパスツアー「突撃！東京農業大学北海道オホーツクキャンパス！」

14:15~16:15 ポスター発表コアタイム

11月6日

9:15~10:15 表彰式・受賞講演

11:45~13:15 キャリア育成ワークショップ「高校生のための鳥学講座」

問合せ先：牛山克巳（宮島沼水鳥・湿地センター）osj.kikaku+youth@gmail.com

### 【高校生によるポスター発表】

- ・受付及びポスター掲示は11月4日（金）8:30から11月5日（土）14:00までの間にお済ませください。学校やグループ単位でご参加の場合、受付は個人ごとではなく、団体単位で行ってください。
- ・会場は8号館2階 8-202です。
- ・ポスターはA0サイズ（横 841mm×縦 1,189mm）以内におさまるようにご用意ください。掲示用具は大会事務局で用意します。
- ・ポスターの説明は5日（土）14:15から16:15の間に、各自ポスターの前に立って実施してください。コアタイム終了後、ポスターを撤去してください。
- ・ポスター賞の審査は、大会実行委員会が選定した審査員が行います。審査方法や審査基準の詳細は公表しませんが、2022年度日本鳥学会ポスター賞募集要項に沿った形で、公正かつ厳格に実施いたします。ポスターの審査を希望されない場合は事前にお知らせください。
- ・ポスター賞の表彰は、6日（日）午前中に行います。
- ・大会期間中の一般プログラム（懇親会を除く）にもご自由にご参加ください。

### 【キャンパスツアー「突撃！東京農業大学北海道オホーツクキャンパス！」】

北海道オホーツクキャンパスで学ぶ学生さんによるキャンパスツアーを行います。

気になるキャンパスライフのこと、研究のこと、受験のことなど、いろいろと聞いてみよう！日本では唯一行われているエミューを対象とした研究について紹介するほか、（鳥インフルエンザの状況にもよりますが）学内で飼育しているエミュー舎の見学も予定しています。

説明等は8号館2階 8-202で行います。

### 【キャリア育成ワークショップ「高校生のための鳥学講座」】

特別ゲストをお呼びして、それぞれの職業の紹介から、現職に至るまで辿った道筋、取り組んでいる研究や活動について紹介してもらいます。参加者には、自由集会を通じて鳥学の魅力について知ってもらうと同時に、研究・調査の進め方、鳥学に携わる職業とキャリアパスについて理解を深めてもらいます。

8号館3階 8-302にて実施します。

### 【懇親会】

11月5日（土）にアルコール飲料なしで、昼食の時間を拡大して日中に懇親会を開催予定です。懇親会への参加には事前申し込みが必要です。

### 【エクスカージョン】

#### 1) 朝のオホーツクキャンパス プチ・エクスカージョンのお知らせ

会期中の11月4日および5日に、バスの一便目の到着から学会プログラム開始までの時間を利用して、農大オホーツクキャンパス野鳥研究会の学生がキャンパス内の林内散策路をご案内します。参加される方は、網走バス農大線の一便（網走バスターミナル発 7:36、農大着 8:00）にご乗車ください。レンタカーや徒歩の方は、8:00までにキャンパスのロータリにあるバス停付近にお越し下さい。申し込み不要、参加無料ですので、双眼鏡持参のうえ、お気軽にご参加ください。

#### 2) 2022年日本鳥学会網走大会特別企画 網走港発着 オホーツク海の海鳥と鯨類の観察クルーズ 事前申し込み制、9月に定員に達しましたので締め切りました。

### 【展示販売】

3日：市民会館、4-6日：7号館2階、（予備4日：体育館ポスター、会場に隣接）にて企業・団体による展示販売が行なわれます。どうぞご利用・ご覧ください。

### 【昼食】

4日（金）と6日（日）は大学生協の食堂（7号館1階 クリオネ）で昼食をとることができます。

### 【休憩室】

4-6日：3号館2階 ラウンジ白樺

4日、6日：7号館1階 第2食堂クリオネ（6日は14:30まで）

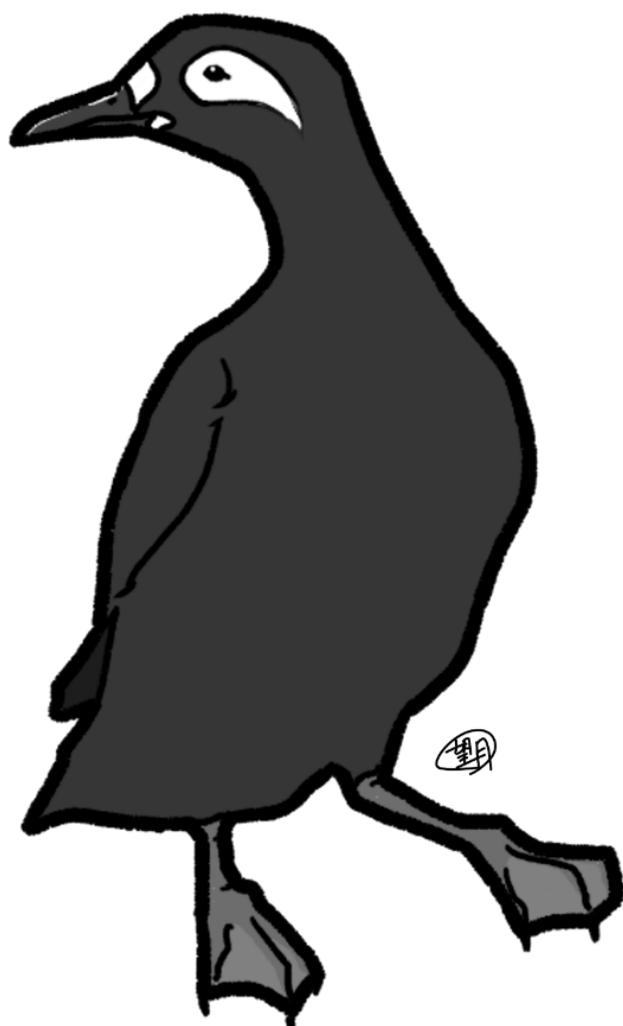
5日：8号館2階 8-203

に休憩スペースを設けています。ご利用ください。

### 【撮影・録音・禁煙】

- 参加者の肖像権、発表における著作権への配慮のため、参加者が他者や他者の発表の録音、録画、撮影等を行うことは禁止します。なお、大会事務局において、大会の記録のため写真撮影等を行うことがありますのでご了承ください。
- 会場は、全面禁煙です。禁煙にご協力ください。

# 公開シンポジウム



【公開シンポジウム案内】

## 『流氷がくる海～オホーツクの海と生き物たち』

開催日：2022年11月3日（木・祝）

時間：開場 16:00, 開演 16:30, 閉演 19:15

場所：網走市民会館大ホール（北海道網走市南6条西2丁目）

**趣旨：**オホーツク海は、カムチャッカ半島、千島列島、サハリン、北海道に囲まれた、世界で最も低緯度で季節海氷の生成される日本唯一の氷海域である。寒流と暖流が知床半島周辺まで南下する北海道のオホーツク海沿岸には豊かな漁場が形成され、サケマスやホタテ等の生産量・額は北海道最大となっている。また、網走周辺を含むこの海域の沿岸域と沖合表層域・海底域のすべてが、環境省「生物多様性の観点から重要度の高い海域」に指定されている。高次捕食者である鳥類に着目すると、アジアで繁殖する海鳥類の圧倒的多数がオホーツク海沿岸で集団営巣するほか、動物プランクトンが大発生する初夏は夥しい数のミズナギドリ類などの探餌域となっている。さらに、生態系の頂点種として、魚類や海鳥類を捕食するオオワシやオジロワシが君臨する。鰭脚類や鯨類なども含めた多様な高次捕食者相や水産資源の豊富さは、この海の高い基礎生産力と、生物間の複雑な相互関係によって支えられていると考えられる。

一方、世界の海は沿岸域の開発や水産資源の乱獲、マイクロプラスチックや原油流出による汚染、水温上昇、酸性化などの要因で環境が悪化している。オホーツク海も環境の変化に晒され、その影響として海氷面積の著しい縮小やサケ漁獲高の減少などのように顕在化しているものもある。このような環境変動による影響も含め、北海道のオホーツク海の鳥類に関する研究や動態のモニタリング体制は十分とはいえず、環境や他の生物群との関わり的重要性から、とくに海域生態系研究の一環としての進展が望まれる。

本シンポジウムでは、オホーツク海生態系のさまざまな栄養段階レベルの生物について研究されている方々をお招きし、基礎生産力の生成機構、とくに海氷の重要性や、代表的な生物種の最新の動向や環境の変化による影響、生物間の繋がりなどについてお話しただく。流氷のくる海、オホーツク海における鳥類研究活性化の足掛かりになれば幸いである。

（世話人：白木彩子（東京農業大学 生物産業学部））

\*主として小学校高学年以上のどなたでも、申し込み不要で聴講いただけます。

## 【公開シンポジウムプログラム】

主旨紹介：白木 彩子（東京農業大学 生物産業学部）

- 1 オホーツク海の豊かさをもたらす仕組み ～海流、流氷とアイスアルジー～  
西野 康人 （東京農業大学 生物産業学部）
- 2 北海道オホーツク海沿岸の水産資源動向 ～スケソを例として～  
田中 伸幸 （北海道立総合研究機構 網走水産試験場）
- 3 知床半島で繁殖する海鳥の生息状況  
福田 佳弘 （知床海鳥研究会）
- 4 北の洋上に生きる海鳥類の利用環境  
西沢 文吾 （水産研究・教育機構 水産資源研究所）
- 5 なぜこの海にシャチはくるのか  
三谷 曜子 （京都大学 野生動物研究センター）

会場からの質問への回答

総括 日本鳥学会会長 綿貫 豊（北海道大学大学院 水産科学研究院）

司会：嶋田哲郎（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）

\*当日は会場からの質問を記述形式で受け付ける予定です。筆記用具をご持参ください。



大会プログラム



【口頭発表】

4日（金） A会場（8号館3階 8-301教室） 16:30～19:20

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
16:30	A01	<i>Helopsaltes (Locustella)</i> 2種の年齢階級判別の可能性	○高木昌興・白岩颯・古巻翔平（北大院・理・多様性生物）
16:45	A02	奄美大島と沖縄島北部におけるアマミヤマシギの自動撮影パターンの比較	○小高信彦（森林総研九州）・鳥飼久裕（奄美野鳥の会）・久高将和・久高将洋（Yambaru Blue）・嵩原健二（沖縄野鳥研究会）・水田拓（山階鳥研）
17:00	A03	営巣場所の特性を調べる際に生じ得る偏り：絶滅危惧種オオトラツグミを例に	○水田拓（山階鳥研）
17:15	A04	天塩川下流域でのチュウヒの繁殖状況について	○紀國聡（建設技術研究所）・先崎啓究（道央鳥類調査グループ）・先崎愛子（道央鳥類調査グループ）・若松延幸（北海道開発局留萌開発建設部）
17:30	A05	鳥類剥製標本におけるDNA半減期について	○表溪太（北海道博物館）
17:50	A06	コウノトリ再導入個体群における繁殖個体への加入要因の検証	○出口智広（兵庫県大）・大迫義人（兵庫県大）
18:05	A07	トキの再導入個体群におけるコロニー崩壊による繁殖成績低下のメカニズム	○永田尚志・加藤賢治（新潟大）・岡久雄二（人間環境大）
18:20	A08	タンチョウは同じ相手と一生連れ添うのか？	○正富宏之（タンチョウ研）・正富欣之（タンチョウ研）
18:35	A09	鶺鴒のウミウの性判別：偏った性比の要因とペアの繁殖行動の意義	○亀田佳代子（琵琶湖博）・村山美穂（京大野生研）・中根理充・北野誉（茨大理工）
18:50	A10	伊豆沼・内沼におけるオオクチバス防除活動にともなう魚食性水鳥の変化	○嶋田哲郎（伊豆沼財団）
19:05	A11	ネコが鳥をたべるとき ～伊豆諸島・小笠原諸島猫糞拾い旅～	○川上和人・亘悠哉（森林総研）

4日(金) B会場(8号館3階 8-302) 16:30~19:20

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
16:30	B01	餌を巡って闘うアホウドリを観察したい！—アクションカメラを用いた採食行動観察	○越智大介・上野真太郎(水研機構・水産資源研)・近藤吏(名城大・農)
16:45	B02	日本におけるミサゴの水銀暴露量の推移	○氏家太(筑波大院生命環境)・新妻靖章(名城大農学)・庄子晶子(筑波大院生命環境)
17:00	B03	ウトウの水銀曝露量の島間比較	○大島康平(筑波大院生命環境)・新妻靖章(名城大農学)・庄子晶子(筑波大院生命環境)
17:15	B04	オオミズナギドリの換羽と羽根の水銀濃度	○岩崎真由・安積紗羅々(北大水産)・石塚真由美・池中良徳・一瀬貴大(北大獣医)・国末達也(愛媛大沿岸環境科学研究センター)・綿貫豊(北大水産)
17:30	B05	ウトウ雛の安静時代謝速度	○永谷奈央(北大水産)・新妻靖章(名城大農)・綿貫豊(北大水産)
17:50	B06	オオセグロカモメの人為起源餌の利用によるヒナの生残への影響	○杉浦恭子、稲本俊太、安武与樹クロス、小高歩、風間健太郎(早大・人科)
18:05	B07	オジロワシによる攪乱が繁殖中のウミネコにもたらす付加的飛翔エネルギーコスト	○中込大河(早稲田大学)・風間健太郎(早稲田大学)
18:20	B08	ミツユビカモメにおける繁殖成績と行動の関係	○中嶋千夏(筑波大・生)・Jacopo Cecere(Univ Milan)・Kyle Elliott(McGill Univ)・Marie Claire Gatt(Univ Milan)・Scott Hatch(ISRC)・新妻靖章(名城大農学)・Don-Jean Léandri-Breton(McGill Univ)・Joan Obiol(Univ Milan)・Diego Rubolin(Univ Milan)・Shannon Whelan(McGill Uni)・庄子晶子(筑波大・生)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
18:35	B09	ハシボソミズナギドリの南極大陸陸棚斜面と海盆域での採餌行動	○安積紗羅々・綿貫豊（北大水産）・高橋晃周・國分互彦（極地研）・安藤靖浩（北大水産）・Fernando Arce・Mary-Anne Lea・Mark Hindell（タスマニア大）・茂木正人（海洋大、極地研）
18:50	B10	魚の逃避速度とウトウの羽ばたき追跡	飯田映美（北大水産）・佐藤信彦（北大北方生物圏 FSC）・大門純平（北大水産）・菊地デイル万次郎（東京農業大）・○綿貫豊（北大水産）
19:05	B11	ウトウは魚種に合わせ広い範囲で柔軟に採食する	○酒井理佐（北大水産）・大門純平（北大水産）・綿貫豊（北大水産）

5日(土) 午前 A会場(8号館3階 8-301教室) 9:15~11:50

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:15	A12	複数種の中型哺乳類捕食者がウミネコの繁殖におよぼす間接的影響	○大槻正遼・中込大河・風間健太郎(早大人科)
9:30	A13	地域の魚類資源をめぐる水族館の飼育動物と野生の繁殖海鳥との競合	鎌野真穂(早大・人科)・堀本高矩(道総研稚内水試)・風間麻未(利尻自然史研)・○風間健太郎(早大・人科)
9:45	A14	北太平洋亜寒帯域に分布するパフィン類3種の形態的特性	○塩見浩二(別海高校)
10:00	A15	エミューはどのようについでむか?—Pecking時の動作解析および撃力分析—	○郡司芽久(東洋大)・安藤潤人(立命館大)・望山洋(筑波大)・新山龍馬(明治大)
10:15	A16	鳥類の蟻浴行動 anting について	○大河原恭祐(金沢大・生命理工)・亀井夢乃(金沢大・生命理工)・秋野順治(京都工繊大・応用生物)
10:30	A17	フンボルトペンギンにおける巡回歩行動の動作解析	○高坂奈央(佐野市立あそ野学園義務教育学校)・宮本恵里(東武動物公園)・関口玲衣(東武動物公園)・小澤賢一(東武動物公園)・増田容一(大阪大)・福原洸(東北大)・郡司芽久(東洋大)
10:50	A18	鳥類の翼の形態と可動域が翼の機能に及ぼす影響	○小林遥香(千葉大)
11:05	A19	ハリオアマツバメの巣内で観察されるつがい以外の成鳥	○森さやか・小林和楽・津田真美加・森田暖々(酪農学園大・環境動物), 米川洋(EFP), 山口典之(長崎大・院・水環), 和賀大地(EFP), 今野怜・今野美和(山階鳥研協力調査員), 樋口広芳(慶應大・自然科学研教セ)
11:20	A20	LiDARを用いたハリオアマツバメの飛行速度の計測	○徳永尚起(建設環境研究所), 米川洋(EFP), 山口典之(長崎大・院・水環), 樋口広芳(慶應大・自然科学研教セ)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
11:35	A21	ハリオアマツバメの「針尾」の秘密を探る	○樋口広芳（慶應大・自然科学研教 セ）、米川 洋（エデュエンス・フイ ールドプロ）、森さやか（酪農学園大・環 境動物）、今野怜（山階鳥研協力調査 員）、今野美和（山階鳥研協力調査 員）、山口典之（長崎大・院・水環）

5日(土) 午前 B会場(8号館3階 8-302) 9:15~11:50

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
9:15	B12	ウトウの親自身と雛のための採餌行動	○大門純平(北大院水産)・河口洋一(徳島大理工)・佐藤雄大(徳島大理工)・藪原佑樹(徳島大理工)・綿貫豊(北大院水産)
9:30	B13	ウトウ雛の巣立ちタイミングに影響を及ぼす要因の検証	○松本和也(筑波大院生命環境)、庄子晶子(筑波大院生命環境)
9:45	B14	ウトウが参加する採餌集団は大きくなる	○酒井彩江(北大水産)・綿貫豊(北大水産)
10:00	B15	抱卵期のウミネコにおける食性と採餌環境利用の性差の年変動	○稲本俊太(早稲田大)・小高歩(早稲田大)・杉浦恭子(早稲田大)・風間健太郎(早稲田大)
10:15	B16	ウミネコの飛行高度と風	○熊谷文(北大・水産)・風間健太郎(早大・人間科学)・三上かつら・綿貫豊(北大・水産)
10:30	B17	新潟県北部で繁殖するウミネコの渡り期および越冬期の行動追跡	○白井正樹(電中研)・清水澄玲(長岡技大)・平田和彦(千葉県立中央博物館)・山本麻希(長岡技大)・関島恒夫(新潟大)
10:50	B18	クロアシアホウドリと漁船の分布の時間的・空間的重複	○林はるか・西沢文吾(水研機構・水産資源研)・富田直樹(山階鳥研)・越智大介(水研機構・水産資源研)
11:05	B19	ミドルトン島で繁殖するエトピリカとウトウはすみわけをしているのか?	○庄子晶子(筑波大院生命環境)・Shannon Whelan(McGill Univ.)・Josh Cunningham(Univ. Guelph)・新妻靖章(名城大農学)・Scott Hatch(Inst. Seabird.Res.Cons.)・中嶋千夏(筑波大院生命環境)・Kyle Elliott(McGill Univ.)
11:20	B20	氷縁へ移動中のアデリーペンギンにおける群れの維持機構	○今木俊貴(総研大)・國分互彦(極地研)・高橋晃周(極地研)

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
11:35	B21	Seabird habitats vs Arctic shipping routes	○Thiebot JB (北海道大), Will P. Alexis (University of Alaska), Tsukamoto Shota (北海道大), Kitaysky S. Alexander (University of Alaska), Takahashi Akinori (国立極地研究所)

5日(土) 午後① A会場(8号館3階 8-301) 15:15~16:15

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
15:15	A22	燕尾の進化的変遷は採餌生態ではなく性選択圧を反映している	○長谷川克(石川県立大)・新井絵美(地球研)
15:30	A23	ワイブル分布を用いた回帰分析によるリュウキュウコノハズクの分散カーネルの推定	○澤田明(国環研)・岩崎哲也(大阪市大)・井上千歳(大阪市大)・中岡香奈(大阪市大)・中西啄実(大阪市大)・澤田純平(大阪市大)・麻生成美(大阪市大)・永井秀弥(北大)・小野遥(北大)・村上凌太(北大)・高木昌興(北大)
15:45	A24	追跡から判明したノスリにおける migratory divide と大陸産ノスリの正体	○中原亨(北九州市博)・長井和哉(岩手大)・伊関文隆(希少生物研)・吉岡俊朗(NPO 法人おおせっからんど)・中山文仁(自然研)・山口典之(長崎大)
16:00	A25	佐渡島中部で繁殖したノスリのペアの営巣行動	○中津弘・永田尚志(新潟大)

5日(土) 午後① B会場(8号館3階 8-302) 15:15~16:15

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
15:15	B22	ウミネコは防波堤の上をなぞるように飛ぶ	○三上かつら(北大水産)・風間健太郎(早大人間科学)・風間麻未(利尻自然史研究室)・綿貫豊(北大水産)
15:30	B23	全国規模の鳥類個体数トレンドから見えてくるアンダーユースの影響	○片山直樹(農研機構)・藤田卓(日本自然保護協会)・植田睦之(バードリサーチ)・天野達也(クイーンズランド大)
15:45	B24	長野県霧ヶ峰高原の草原内に侵入する樹木の被度や種類が繁殖期の出現鳥類に与える影響	○井川洋(信州大・総合理工学)・笠原里恵(信州大・理)
16:00	B25	オナガガモの渡りと越冬・中継地における農地利用	○森口紗千子(日獣大)・嶋田哲郎(伊豆沼財団)・足利直哉(わいるどらいふ秋田)・杉野目斉(仙台市)・佐藤賢二(エコリス)・羽賀淳(国環研)・牛山克巳(宮島沼水鳥・湿地センター)・福田亘佑(伊豆沼財団)・土方直哉(土方オフィス)・植田睦之(バードリサーチ)・藤田剛(東大)・Hansoo Lee(KoEco)・加藤卓也・羽山伸一(日獣大)

5日(土) 午後② A会場(8号館3階 8-301) 19:00~20:45

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
19:00	A26	生物分類と法を巡る諸問題について	○高橋満彦(富山大・教)
19:15	A27	緑色レーザー光による採餌場・ねぐらにおけるカラス類の忌避効果の検証	笹野耕平(長岡技大)・○山本麻希(長岡技大)
19:30	A28	レーザー照射式カラス類追払い・防除装置の長期的効果検証	○今井健裕(北大院・農)・山田浩之(北大院・農学研究院)
19:45	A29	繁殖期のカラス類との付き合い方を考える	○中村眞樹子(NPO 法人札幌カラス研究会)
20:00	A30	柴犬が野鳥の生息に及ぼす影響	○武田恵世(日本野鳥の会三重)
20:15	A31	2021年-2022年に高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)ウイルスに感染した野鳥	○金井裕(日本野鳥の会)・庄司亜香音(環境省自然環境局)
20:30	A32	遺伝情報に基づく外来種ソウシチョウの管理ユニット	○天野一葉(琵琶博)・石橋靖幸・東條一史(森林総研)・中村秀哉(常磐大)

5日(土) 午後② B会場(8号館3階 8-302) 19:00~20:45

開始時刻	発表番号	タイトル	発表者
19:00	B26	巣材として持ち込まれたプラスチックゴミがウミネコの抱卵温度に与える影響	○小高歩、風間健太郎(早大・人科)
19:15	B27	日本で繁殖するイカルチドリの季節移動と利用環境	○笠原里恵(信大・理)・東信行(弘前大・農生)・中嶋瑞美(信大院・総合理工学)・今野美和(北海道帯広市)・今野怜(北海道帯広市)・榮村奈緒子(鹿児島大・農)・森本元(山階鳥類研究所)
19:30	B28	北海道で繁殖するコチドリの渡り経路と長野県の集団との比較	○中嶋瑞美(信州大・総合理工学)・笠原里恵(信州大・理)・中村太士(北大院・農)・今野美和(北海道帯広市)・今野怜(北海道帯広市)
19:45	B29	固定式視線誘導柱による、意図せぬ「巣箱」の提供数の推定	○三上修(北教大)・三上かつら(バードリサーチ)・上野裕介(石川県立大)・森本元(山階鳥研)
20:00	B30	ステレオマッチング技術を用いた鳥類の飛翔軌跡の簡易把握手法の開発	○上野裕介(石川県立大)・岩見聡・中森弘明・山本裕典((株)オリエンタルコンサルタンツ)
20:15	B31	ドローンを活用したカワウ対策	○坪井潤一(水研機構)
20:30	B32	ガンカモ一斉調査を活用した水上太陽電池発電所設置によるカモ類渡来羽数変化に係る検討2	○尾原正敬(千代田コンサルタント)

【ポスター発表】

奇数番号の発表のコアタイム：4日（金） 9:30～12:00

偶数番号の発表のコアタイム：4日（金） 13:30～16:00

会場：体育館

\*：ポスター賞応募の発表には\*を付した。

発表番号*	タイトル	発表者
P001	枇榔島におけるカンムリウミスズメの繁殖行動への一考察	○中村豊・古中隆裕（NPO 宮崎野生研・枇榔島調査研）
P002*	長時間録音によるリュウキュウコノハズクの交尾頻度の推定	○金杉尚紀(北大・院理)・澤田明(国環研・PD)・佐々木瑠太(北大・院理)・中村晴歌(北大・院理)・高木昌興(北大・院理)
P003	北海道十勝平野のハイタカとノスリにおけるオオタカとの巣間の距離と繁殖の成否	○平井克亥（北海道ラプター）
P004*	繁殖期と越冬期における茨城県神栖市の沿岸域を利用する鳥類の分布状況	○小林楓(東京都市大)・北村亘（東京都市大）
P005	北海道北部オホーツク海側に繁殖するチュウヒのつがい形成と繁殖エリアについて	○土門優介・工藤晃央・鈴木祐太郎・中村紘喜・宮庄理子（(株)ドーコン）・一北民郎（北電総合設計（株））・先崎啓究・先崎愛子（道央鳥類調査グループ）・川崎康弘・川崎里実（日本野鳥の会オホーツク支部）
P006*	カワウの繁殖成績に対する営巣密度と肉食獣の侵入の影響	○田部田勉（岩手大）・嘉藤慎穰（地域環境計画）・高橋雅雄（岩手県立博物館）
P007	神奈川県小網代湾の樹林におけるカワウ埒利用個体数の季節変動	○田中雅宏（日大生物博）
P008*	都市部に隣接した森林におけるクマガラの生息地選好性	○猿舘聡太郎(東海大・院・生物)・雲野明(道総研)・松井晋(東海大・院・生物)

発表番号*	タイトル	発表者
P009	地震が希少鳥類の繁殖状況に及ぼす影響 ーダム事業におけるモニタリング調査からの考察	○保科賢司（パブリックコンサルタント（株））・林正貴（北海道建設部）・川村徹（北海道建設部）・楠真一（北海道空知総合振興局）・高橋智史（北海道胆振総合振興局）・姉崎秀哉・植田和俊（パブリックコンサルタント（株））
P010*	津軽海峡周辺で繁殖するウトウの採餌域と繁殖アウトプット	○小澤光莉（東洋大院）・東條菜々花（東洋大院）・島袋羽衣（明治大）・平田和彦（千葉県立中央博物館）・伊藤元裕（東洋大）
P011	風蓮湖・温根沼における人為的餌資源がオオワシ・オジロワシに与える影響	○稲葉一将（公益財団法人日本野鳥の会）・外山雅大（根室市歴史と自然の資料館）・古南幸弘（公益財団法人日本野鳥の会）・田尻浩伸（公益財団法人日本野鳥の会）
P012*	非繁殖地におけるヘラサギ類の干潟と周辺環境利用	○清水孟彦（北海道大）
P013	カラーリングおよびGPS ロガーを利用したシマフクロウの分散および生存率に関する知見	○竹中健（シマフクロウ環境研究会）
P014*	都市ー農村間の環境勾配におけるツバメの営巣地選択と最適環境の評価	○天野孝保（長崎大・院・水環）・山口典之（長崎大・院・水環）
P015	タンチョウの繁殖状況 ～2021 年道北地域オホーツク海側～	○正富欣之（JTTRI）・若松徹（環境省）・村山良子（野鳥の会道北支部）・小西敢（浜頓別町）・千田幹太（浜頓別町）・小俣孝範（野鳥の会道北支部）
P016*	盛岡市におけるコムクドリの渡り時期の把握と生息環境の要因解析	○大泉龍太郎・池田小春・山内貴義（岩手大・農）
P017	神奈川県におけるコブハクチョウ <i>Cygnus olor</i> の生息状況	○加藤ゆき（神奈川県博）・葉山久世（かながわ野生動物サポートネットワーク）・篠田授樹（地域自然財産研究所）
P018*	染井霊園で営巣したツミ ( <i>Accipiter gularis</i> ) の食性	○井上茉優（日本野鳥の会東京支部）・北村亘（東京都市大学）
P019	瀬戸内海沿岸のカワウのねぐらにおける帰還方向の季節変化 ～夏は海より川が好き～	○高木憲太郎（バードリサーチ）

発表番号*	タイトル	発表者
P020*	京都府におけるミソサザイの繁殖生態	○惣田彩可（京都大・理学研究科）
P021	茨城県神栖市の鳥類相	○阿部仁美（千葉科学大）、奴賀俊光（千葉市野鳥の会）、北村亘（東京都市大）
P022*	ハリオアマツバメにおけるつがい外子の発生と繁殖成績の関係（予報）	○小林和楽・森さやか・津田真美加・森田暖々（酪農学園大・環境動物）、吉川夏彦（科博・動物）、和賀大地（EFP）、山口典之（長崎大・院・水環）、今野怜・今野美和（山階鳥研協力調査員）、樋口広芳（慶応大・自然科学研教セ）
P023	佐賀平野における近年のカササギの密度変動と土地利用との関連	○徳田誠・永淵拓歩（佐賀大・農）・佛坂安恵（佐賀市）・池上真木彦（国立環境研）
P024*	鳥類の共同繁殖の推進力は何か？—リュウキュウオオコノハズクを用いたケーススタディー	○江指万里（北大院・理）・熊谷隼（北大院・理）・宮城国太郎（沖縄野鳥の会）・外山雅大（根室市歴史と自然の博物館）・高木昌興（北大院・理）
P025	東北地方におけるチゴハヤブサの繁殖成績と営巣環境	○立石淑恵（オホーツクミュージアムえさし）・高橋雅雄（岩手県博）・東信行（弘前大）
P026*	ミャンマーの鳥類の系統解析により現鳥類相の変遷を探る	○檜橋真理環（九州大学）・Win Win Nwe(Forest Research Institute, Myanmar)・西海功（国立科学博物館）
P027	世界自然遺産知床におけるトビの大発生を引き起こす要因	○松本経（北見工大）・波多野寿彦（ノースワン）
P028*	国内で飼育されるコガタペンギンの集団遺伝的特徴	○樋口綾・大久保倫子・平山博樹(東京農大院・生物生産)・野島大貴(葛西臨海水族園)・相馬幸作(東京農大院・生物生産)
P029	アオバトの謎めいた生態を調査する 2022	○松岡和樹（ちいかん）・田村里（ちいかん）
P030*	沖縄島におけるリュウキュウコノハズクの2系統間の体色の差異と地理的傾向	○榛沢日菜子（北大・理）・江指万里（北大・院理）・細江隼平（北大・院理）・宮城国太郎（沖縄野鳥の会）・熊谷隼（北大・院理）・高木昌興（北大・院理）

発表番号*	タイトル	発表者
P031	小笠原諸島～伊豆諸島 ツバメの渡り調査 2022 大島・新島・式根島・三宅島の巣の数	○重原美智子
P032*	アカモズとモズの交雑個体の由来と異種間つがいの形成要因	○水村春香（東大・院農），久保田耕平（東大・院農），西海功（国立科博・動物），今西貞夫（長野県諏訪市），望月みずき（鳥博/九大・院），樋口広芳（慶應大・自然科学研教セ）
P033	さまよえるアカヒゲ：分類をめぐる変遷と核 DNA からみたアカヒゲ種群の集団構造	○関伸一（森林総研・関西）
P034*	サギ科における足部骨格形態の特徴と生態との関連性	○加藤可南子（東洋大）・郡司芽久（東洋大）
P035	亜種エゾフクロウによる他種の鳴き声の模倣の可能性	○小亀安代・森谷岑次・菊池晏那（札幌市円山動物園）・高木昌興（北大院・理・多様性）
P036*	カラス・カワウ・アオサギの足底部における神経組織の種類と分布について	○橘夕香（宇都宮大院地域創生）・青山真人（宇都宮大院地域創生）・津田その子（中部電力）
P037	音声に基づくヒクイナの個体数推定と生息地利用状況の可視化	○松林志保・斎藤史之・鈴木麗璽・中臺一博・奥乃博
P038*	鳥類の翼先端形質は飛翔特性と生息環境に対応する	○JIANG YAJUN（千葉大・融）・村上正志（千葉大・理）
P039	野外鳥類集団における音声相互作用分析のためのマイクロホンアレイに基づく自動観測の検討	○鈴木麗璽・炭谷晋司・有田隆也（名大）・松林志保（阪大）・中臺一博（東工大）・奥乃博（京大）
P040*	カラスの頸部羽毛の形態と色彩に関する研究	○馬庭千菜実（東京農工大連合農学）、Nathan Hagen（宇都宮大学大学院地域創生、宇都宮大学工/CORE）、大谷幸利（宇都宮大学大学院地域創生、宇都宮大学工/CORE）、青山真人（宇都宮大学大学院地域創生、宇都宮大学農）
P041	深層学習による自動撮影カメラ画像を対象としたシマフクロウの検出	長谷川大・○早矢仕有子（北海学園大）
P042*	江戸時代の大坂城下町にいたのはどんな鳩？ —遺跡出土ハト科資料からの検討—	○許開軒（北大院・文）・丸山真史（東海大・人文）・江田真毅（北大・総合博）

発表番号*	タイトル	発表者
P043	先進的計測システムと数理モデルによる野生動物の音声コミュニケーション分析	○合原一究（筑波大）、武田龍（阪大）、栗野皓光（京大）、青柳富誌生（京大）
P044*	メスのブンチョウの、聞き馴染みのある求愛歌に対する選好性の検討	○牧岡洋晴（北大生命科学院）、Rebecca Lewis（Chester Zoo Conservation Scholar Department of Earth and Environmental Sciences   The University of Manchester）、相馬雅代（北大理学研究院）
P045	四国におけるオオムシクイの秋期渡りの記録	○籠島恵介
P046*	カワウ・アオサギ混合コロニーにおける非対称な「盗聴」行動	○本多里奈（埼玉県立自然博）・末武かや（弘前大）・東信行（弘前大）
P047	ハシブトガラスにおける物体と画像の認識	○小原愛美（東京農工大連合農） 青山真人（宇都宮大）
P048*	ロボット聴覚用音響処理ソフトウェア HARK を用いたサウンドスケープの解析	○山本遼（東工大）・西田健次（東工大）・糸山克寿（東工大/HRI-JP）・松林志穂（阪大）・鈴木麗壘（名大）・中臺一博（東工大）
P049	奄美大島に固有のオーストンオオアカゲラ個体群の現状と個体数推定の試み	○鳥飼久裕（奄美野鳥の会）・藤井幹（日本鳥類保護連盟）・松永聡美（日本鳥類保護連盟）・小高信彦（森林総研）
P050*	プレイバック法に対する繁殖期のヒクイナ鳴き返しの変化	○王一勉（1, 2）、古口大雅、吉田祐一大原庄史（1, 3）、茨田匡（1, 2）、柳楽浩平、水本武志（5）、関口あゆ美、堀直子、菊地伸夫（1, 4）、北村亘（1, 2）1 葛西鳥類保全委員会、2 都市大・環境、3 生態教育センター、4 東京都公園協会、5 株式会社ハイラブル
P051	ロシアアムール川流域で出生したオジロワシの移動と滞在地の環境	白木彩子（東農大・生物産業）・Pronkevich, V (IWEP・RAS)・○奥田篤志（北大・苫小牧研究林）・池田寛美（東農大院・生物産業学）
P052*	インターバルカメラを用いたシジュウカラの繁殖モニタリングの有効性	○山崎駿（東海大・院・生物）・佐川南美（東海大・院・生物）・松井晋（東海大・院・生物）

発表番号*	タイトル	発表者
P053	オオジシギの渡り経路の衛星追跡	○田尻浩伸, 浦達也, 葉山政治, 手嶋洋子, 松本潤慶, 大畑孝二, 富岡辰先 (日本野鳥の会)
P054*	ドローンで採餌集群タイプとウミネコの採食行動を調べる	○馬鋭・熊谷文・綿貫豊 (北大水産)
P055	船舶用レーダーによる鳥類の種分類を目的とした飛翔軌跡の特徴量比較	○鎌田泰斗 (新潟大)・佐藤雄大 (徳島大)・河口洋一 (徳島大)・島田泰夫 (日本気象協会)・黒田幸夫 (日本気象協会)・三上かつら (北海道大)・綿貫豊 (北海道大)・関島恒夫 (新潟大)
P056*	風速と風向に着目したウミネコの着地軌跡のパターン分け	○村社光誠 (筑波大学大学院)・河辺徹 (筑波大学)・合原一究 (筑波大学)
P057	サロベツから道東へ渡ったタンチョウ発信機装着個体の動き	○長谷部 真 (サロベツエコ)・原拓史・百瀬邦和 (タンチョウ保護研究 G)・嘉藤慎 (サロベツエコ)
P058*	GPS 行動追跡調査によるカワウの飛翔・採餌行動の解明	○丸山拓也・山本麻希 (長岡技大)・坪井潤一 (国立研究開発法人水産研究・教育機構)
P059	風力発電施設における鳥衝突カメラの開発	○安田耕治 (テクノ中部)
P060*	小形風力発電の立地適正化を目的としたオジロワシの生息ポテンシャルマップの作製	○茨田匡 (都市大・院)・久保昌也 (JSWTA, ゼファー株式会社)・新井隆史 (ゼファー株式会社)・北村亘 (東京都市大)
P061	北海道枝幸町ウミネコ営巣地における陸生哺乳類侵入防止フェンス設置の効果	中込大河 (早大・人間科学)、大槻正遼 (早大・人間科学)、村山良子 (村山木材)、○風間麻未 (利尻自然研)、風間健太郎 (早大・人間科学)
P062*	繁殖期に耕作放棄水田を利用するヒクイナの行動圏	○大槻恒介 (長崎大)
P063	近世の鷹狩で捕獲されたツル:「鷹の鳥」としてのツルの同定	○久井貴世 (北大院・文)
P064*	江戸時代の歴史資料におけるワシ類の名称の整理 — 『諸国産物帳』を事例に—	○池田圭吾 (北大・文)・久井貴世 (北大)
P065	荒川のコハクチョウは川底から何を摂取しているのか	○渡辺朝一

発表番号*	タイトル	発表者
P066*	ヒバリは右利き、左利き？：さえざり飛翔における旋回の方角を決める要因	○佐々木美空（北教大函館）・上條初音（北教大函館）・三上かつら（バードリサーチ）・三上修（北教大函館）
P067	飼鳥の籠拔を引き起こす要因	○西田澄子（東京都市大）・北村亘（東京都市大）
P068*	佐賀平野におけるハシブトガラスとハシボソガラスの営巣特性	○新宮 仁大・徳田 誠（佐賀大・農）
P069	越えるか、くぐるか、都市河川に二段に架かる橋と高架道	○橋本啓史（名城大）
P070*	野生鳥類の肺から検出された大気中マイクロプラスチック	○徳長ゆり香（日獣大）・大河内博（早大）・谷悠人（早大）・新居田恭弘（パーキンエルマー）・橘敏雄（応用生物）・西川和夫（応用生物）・片山欣哉（日獣大）・森口紗千子（日獣大）・加藤卓也（日獣大）・羽山伸一（日獣大）
P071	Lights Out 夜間に渡る鳥に配慮した照明を～米国での市民プログラム事例紹介～	○Mark Ryan Nugent (University of North Florida, 北大)・相馬雅代（北大）
P072*	風車リスク評価に向けた東日本の主要な繁殖地におけるオオミズナギドリの飛翔経路予測	○富田健斗(新潟大)・鎌田泰斗(新潟大)・早坂圭司(新潟大)・山本麻希(長岡技科大)・小山偲歩(名古屋大)・依田憲(名古屋大)・関島恒夫(新潟大)
P073	集団渡来地における鳥獣保護区の現状と傾向	○奥山正樹（鹿児島大）
P074*	極東ロシアにおけるオジロワシ若鳥の餌場と埒の適地推定による生息地保全への提案	○池田寛美（東農大院・生物産業学）・白木彩子（東農大・生物産業）・Pronkevich, V (IWEP・RAS)・島田沢彦（東農大・地域環境科学）・小野貴司（酪農大・農食環境）
P075	果樹園のカラス対策「くぐれんテグスちゃん」の開発	○吉田保志子（農研機構）・佐伯緑（農研機構）
P076*	箱罠に飛来するカラスの行動解析 一特に罠に入らないカラスの行動について一	○飯島真理亜（宇都宮大学大学院地域創生）・青山真人（宇都宮大学大学院地域創生，宇都宮大学農）
P077	タンチョウ飼育個体の放鳥後の生存状況について	○松本文雄（日本ツル・コウノトリネットワーク）・吉野智生（釧路市動物園）

発表番号*	タイトル	発表者
P078*	野外ケージで飼育されることが繁殖期におけるカラスの生殖機能に及ぼす影響	○井本百香（宇都宮大・院）・青山真人（宇都宮大）
P079	北海道猛禽類研究会の活動について-「北海道の猛禽類 2020 年版」発行のご案内-	藤巻祐蔵（帯畜大名誉教授）、工藤晃央（(株)ドーコン）、天野拓郎（日本工営(株)）、石原英昭（北海道電力(株)）、石山浩一（(株)森林環境リアライズ）、一北民郎（北電総合設計(株)）、大坪二郎（いであ(株)）、紀国聡（(株)建設技術研究所）、小林功（パシコン(株)）、瀧本育克（(株)建設環境研究所）、玉田克己（(独)道エネ環地研究所）、玉田祐介（(株)長大）、土屋尚（Eureka!北海道）、○野表結（(株)道技コン）、平井克亥（北海道ラプター）、山口珠輝（(株)ドーコン）、山田芳樹（(株)ドーコン）
P080*	宮城県伊豆沼・内沼で越冬するオナガガモの住血原虫感染状況	○大島遥香・森口紗千子（日獣大）・近藤潤矢・佐藤未来・黒木友香・佐藤雪太（日大）・嶋田哲郎（伊豆沼財団）・牛根奈々（ヤマザキ動物看護大）・若山絵夢・加藤卓也・羽山伸一（日獣大）
P081	針葉樹若齢人工林に依存する鳥類はいるか	○佐藤重穂（森林総研四国）
P082*	ハシボソガラスの寄生蠕虫相：佐賀市で捕獲された個体に基づく解析	○大塚陽香（佐賀大・農）・井上健（佐賀大・農、山口大院・共獣）・陣内聡・徳田誠（佐賀大・農）
P083	震災前市民データを活用した福島第一原発事故による避難指示区の鳥類相変化の検証	○熊田那央（国環研）・深澤圭太（国環研）・板谷浩男（パシフィックコンサルタンツ）・山本裕（野鳥の会）・吉岡明良（国環研）
P084*	リュウキュウコノハズクの繁殖期の推移に伴うウモウダニ負荷の変化	○白岩颯（北大・院理）・澤田明（国環研・PD）・金杉尚紀（北大・院理）・中村晴歌（北大・院理）・高木昌興（北大・院理）
P085	日本の鳥の越冬分布の 1980 年代からの変化	○植田睦之（バードリサーチ）・奴賀俊光（日本野鳥の会）・山崎優佑（バードリサーチ）・葉山政治（日本野鳥の会）

発表番号*	タイトル	発表者
P086*	知床半島における観光船の与える魚類と自然の餌生物の海ワシ類による利用実態	○谷星奈・白木彩子(東京農大・生物産業)
P087	栃木県大田原市におけるコシアカツバメの巣の分布の変遷	○福井亘(栃木・黒羽高校)・大田原崇泰(栃木・黒羽中)
P088*	クリムゾン・ポラリス・オイルスピル発生直後の漂着鳥調査	○植松一良(NRDA アジア・APVS)・植松真理(APVS)・千葉忍(宮城県獣)・関下斉(野鳥の会青森)・町田雪乃、道下正貴(日獣大)・田島木綿子(科博)・北山知代(ELNA)・国松正輝(ワレニウス・ウィルヘルムセン)・萩原貴浩(MPDC)
P089	広域調査による水稲田の鳥類分布の把握と冬期湛水が鳥類相に及ぼす影響	山口恭弘(農研機構)・吉田保志子(農研機構)・益子美由希(農研機構)
P090*	鳥類音声種判別のためのトレーニングツールとリトレの学習履歴を基にした出題頻度の最適化	○小川結衣(国環研)・深澤圭太(国環研)・吉岡明良(国環研)・熊田那央(国環研)・竹中明夫(元国環研)
P091	北海道における2020年のオオジシギの繁殖個体数の急激な減少とその後の動向	○浦達也・古南幸弘・大久保明香・松本潤慶・稲葉一将・池淵朋華・原田修・田中美晴・田尻浩伸(日本野鳥の会)、長谷部真(サロベツ・エコ・ネットワーク)
P092*	網走周辺のおホーツク海域に生息する海鳥類の生息状況と分布に関わる要因	○木村智紀(東京農大)・白木彩子(東京農大)
P093	グリーンインフラとしての千歳川遊水地における植生遷移と水鳥収容力の関わり	○佐藤ひろみ
P094*	千葉県およびその周辺地域に特異的な眉斑の薄いエナガの分布	○望月みずき(鳥博/九大院)・大庭照代(千葉県立中央博)・箕輪義隆(千葉市野鳥の会)・平田和彦(千葉県立中央博)・桑原和之(千葉県立中央博)
P095	福島県富岡町における無居住化が鳥類群集に与える影響について	○板谷浩男(パシフィックコンサルタンツ)・木本祥太(石川県庁)・鬼久保浩正(パシフィックコンサルタンツ)
P096*	クロサギの羽色と採餌行動及び利用環境の比較	○植村慎吾(バードリサーチ)

発表番号*	タイトル	発表者
P097	東京都葛西海浜公園におけるシロチドリ の繁殖の保護対策について	吉田祐一・大原庄史・○古口大雅（生態 教育センター）・木村成美（葛西海浜公 園パートナーズ）・久保田潤一（NPO birth 自然環境マネジメント部）
P098*	近畿地方におけるチョウゲンボウ進出の 現状と生息環境評価	○田中駿(京都大院・農)・柴田昌三・貫 名涼(京都大院・地球環境学堂)

【高校生ポスター発表】

コアタイム：5日（土） 14:15～16:15

会場：8号館4階 8-401

発表 番号	タイトル	学校名	発表者
Y1	スズメと口笛の関係	逗子開成中学校	石渡戸 優
Y2	柳瀬地区におけるカラスの大量発生 の原因について	中央大学附属高等学校	角島 凧
Y3	みや林における鳥類定点観察か らの考察	桐朋高等学校	西田 康平
Y4	カラスバトの音声コミュニケー ションについて	都立国分寺高等学校	久保光次郎・高槻遼大・大 野彩乃・勝見美海・納谷莉 子・相田麻衣
Y5	カラスバトのGPSを使ったその 生態の解明	東京都立国分寺高等学 校	石井綾乃・大野彩乃・勝見 美海・久保光次郎・関口 衛・武田廉太郎
Y6	フクロウの給餌食物解明に向け たペリット分析と映像分析の比 較	三重県立桑名高等学校	緒方捷悟・坂井智洋・門脇 優依・多湖由海・田中来 瞳・藤田直花
Y7	フクロウが好む巣箱って知って る？	三重大学教育学部附属 中学校	丹下 翠
Y8	名護岳と西銘岳の森林動物相の 比較研究：名護岳もがんばれ！	沖縄県立辺土名高校	畑信吾・田中啓達・岡田健 吾・上原蓬・佐藤優人・兵 道静真・金城永都・金城勇 斗

【自由集会】

6日(日) ① 10:45~12:45 8号館2階&3階

発表番号	会場	タイトル	主催者
W01	8-201	北海道における海鳥とオジロワシ	綿貫豊・中込大河・風間健太郎・福田佳弘・大門純平（日本海鳥グループ）
W02	8-202	カワウを通じて野生動物と人との共存を考える（その24）－北海道・東北の分布や標識状況	熊田那央・高木憲太郎（バードリサーチ）
W03	8-203	みんなで作ろう！目録8版（その3）－日本鳥類目録100周年－	西海功・金井裕・山崎剛史・小田谷嘉弥・亀谷辰朗・齋藤武馬・平岡考・平田和彦・池長裕史・板谷浩男・梶田学・大西敏一・西沢文吾・先崎理之・高木慎介・梅垣佑介（目録編集委員会）
W04	8-204	絶滅寸前の鳥アカモズの現状と、絶滅回避に向けた保全体制の模索	松宮裕秋（信大OB）・北沢宗大（北大農学院）・水村春香（東大院）・青木大輔（森林総研）・赤松あかり（北大理学院OG）
W05	8-301	JOGA 第26回集会 北海道におけるガン・ハクチョウ類の増加と課題	長谷部真（サロベツエコ）・神山和夫（バードリサーチ）・田尻浩伸（日本野鳥の会）

6日(日) ② 13:45~15:45 8号館2階

発表番号	会場	タイトル	主催者
W06	8-201	日本鳥学会風力発電等対応ワーキンググループの設立と学会基本理念の策定	風間健太郎（早大）・先崎理之（北大）・浦達也（日本野鳥の会、鳥類保護委）・武石全慈（鳥類保護委）
W07	8-202	個体群行列モデルと集団的思考	島谷健一郎（統数研）
W08	8-203	2022 国際鳥類学会に基づいてアジアの陸生鳥類の研究と保全の展望	シンバ・チャン（バードリサーチ）
W09	8-204	北海道のタンチョウ～分布の広がり とこれからの課題	松本文雄（日本ツル・コウノトリネットワーク）・正富欣之（タンチョウ研究所）・吉野智生（釧路市動物園）